

午後2時01分開会

○桜井委員長 皆さん、こんにちは。ただいまから環境まちづくり委員会を開会いたします。まずは、新年初めてでございますので、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いをいたします。

委員会でございますけど、傍聴者の方にご案内をいたします。当委員会では、撮影、録音及び通話は認められておりません。また、メールのやり取りなど、パソコン及びスマートフォンなどの電子機器使用も認められておりませんので、あらかじめご了承くださいと思います。

欠席届が出ております。富山あゆみ委員です。体調不良のためということで欠席届が出ております。ご報告をいたします。

日程に入る前に、1月22日付で春山委員が議員辞職をされたことに伴い、当委員会が1名欠員となりました。今後は7名の委員会となりますが、皆様のご協力を頂きますよう、どうぞよろしくお願いしたいと思います。

次に、先ほど開催されました議会運営委員会において、当委員会に新たに陳情が1件送付されました。この送付8－1についてでございますけど、委員の皆さんにご相談でございます。令和8年4月施行予定の道路交通法改正を踏まえた千代田区内（特に靖国通り）における自転車通行環境整備等に関する陳情でございます。これについては、自転車通行環境の現状と課題について、調査、整理することなどを求めるものでございます。当委員会では、千代田区自転車活用推進計画については既に区が取り組んでいるところでございまして、昨年11月7日の当委員会で素案の報告がございました。その後、パブリックコメントが実施され、そのご意見の内容や最終的な計画案を本年3月頃に当委員会へ報告してもらう予定でございますので、この陳情については、その際に陳情審査も併せて行いたいと思っております。より具体的な詳しい内容も出てくるかと思っておりますので、そのような形でこの陳情については取り扱いたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。ありがとうございます。

それでは、日程に入ります。本日の日程をご確認ください。この日程のとおり進めたいと思いますが、よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。ありがとうございます。

それでは、日程1、報告事項に入ります。初めに（1）番、東京都ゼロエミッション地区創出プロジェクトにおける千代田区提案（神田錦町南部地区）の選定について、執行機関からの説明を求めます。

○神河ゼロカーボン推進担当課長 それでは、東京都ゼロエミッション地区創出プロジェクトにおける千代田区提案（神田錦町南部地区）の選定につきまして、資料1によりご報告いたします。

まず、1、東京都ゼロエミッション地区創出プロジェクトの概要でございます。東京都が進める2050年ゼロエミッション東京、こちらのゼロエミッションとは、本区が掲げる2050ゼロカーボン千代田のゼロカーボンとほぼ同意義だと思えていただけたらと思います。東京都が2050年ゼロエミッション東京を実現するために、都内の再開発エリ

ア、商業地などに、モデル地区、これがゼロエミッション地区ということでございますが、こちらを定めまして、ゼロエミッションに資する取組を進め、その成果を都内他地域に横展開していくというものを行うものでございます。選定された区市町村は、都から2030年までの5年間の取組に関する事業費の3分の2、最大10億円の補助、そして専門的なコンサルタントの伴走支援を受けることができるというような形でございます。こちら、昨年12月、千代田区の提案、神田錦町南部地区がそのゼロエミ地区に選定いただくことができたということでございます。

続きまして、2、千代田区提案（神田錦町南部地区）の概要でございます。まず背景としましては、千代田区におきましてはCO<sub>2</sub>排出量の約8割が業務部門、また約8割が電気由来であるため、目指す2050ゼロカーボンのためには業務ビルの再エネ電力への切替えが最重要課題となっております。都の支援を受け、区が行っている施策を加速度をつけて推進してまいりたい。このような考えの下で応募したものでございます。

続きまして、（2）神田錦町南部地区選定の考え方でございます。神田錦町南部地区におきましては、昨年9月に神田錦町南部地区まちづくりガイドラインを策定いたしまして、四つのまちづくりアクション、このうちの一つに環境への配慮や防災性の高いまちづくりを進めていくというような形のことを掲げているところでございます。また、この地域におけるまちづくりの核としましては、市街地再開発事業の実施が検討されておりまして、その建築物等で様々な脱炭素技術が導入予定であるということでございます。これらのような点を踏まえまして、千代田区ではこの地区を提案させていただいたということになります。

続きまして、（3）取り組みの概要、大きく3点でございます。まず再エネ電力への切替えでございます。千代田区ではEサイクルちよだという取組を進めているところでございます。このEサイクルちよだは、高山市、嬬恋村、神栖市、匝瑳市等の区の連携自治体の自治体内の発電所でつくられた再エネ電力を区内需要家に届ける仕組みでございます。この神田錦町南部地区をこの区で進めるEサイクルちよだの重点地区としまして、業務ビルに再エネ電力への切替えを促進してまいりたいということでございます。また、再エネ電力につきましては、Airソーラー——ペロブスカイト太陽電池と言いますけれども、こちらの普及に大変期待が寄せられているところでございますが、地区内の建物の日照条件等を調査するAirソーラー設置ポテンシャル調査を実施しまして、今後行われるであろう国や都の補助の活用、区としての補助の検討などもし、Airソーラーの導入支援を行ってまいりたいと考えております。

2点目、建築物の省エネ化でございます。新築建物につきましては、環境計画書制度による事前協議の仕組みがございます。また、省エネルギー建築物助成等の助成金の活用によりZEB化を推進しているところでございますけれども、それを進めるとともに、既築のビルにつきましては省エネ診断を実施しまして、高効率空調・LED照明等の導入を進めてまいります。

続きまして、3点目としましては、中小企業の脱炭素経営支援、またイベント開催等の普及啓発・行動変容等も進めてまいりたいということでございます。

いずれもこれまでも区全体で取り組んでいることではございますけれども、都の支援を受けてさらに力を入れていくということでございます。

最後に、今後の進め方でございます。今年度中は主に地区内の事業者等へ周知を行い、先ほどご説明しました再エネ切替え等の具体の取り組みにつきましては、次年度、令和8年度から実施する予定でございます。こちらの地区を、ゼロエミッション東京、ゼロカーボン千代田に向けた区のモデル地区として様々な事業を実施し、その成果を区内の他地域にも展開しながら、2050年のゼロカーボン千代田を実現してまいりたいということでございます。

説明は以上でございます。

○桜井委員長 はい。説明を頂きました。委員の皆様からご質疑がございましたら、頂きます。いいですか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。この事業についてはこれからいろいろとご説明を頂きたく機会というのがありますよね。取りあえずこういう形で千代田区が選ばれたということでございますから、非常に関心を持ってこれからも取り組んでいただきたいと思いますし、当委員会のほうにも報告を逐次していただく。そのようにお願いしたいと思います。

それでは、次の報告事項に入ります。2番目、秋葉原公園の改修について報告してください。

○村田道路公園課長 それでは、秋葉原公園の改修についてご説明させていただきます。資料番号02、環境まちづくり部資料2をご覧ください。

秋葉原公園は昭和60年に開園し、平成26年度に改修された秋葉原駅南東部に隣接する区立都市公園ですが、現状は駅前で人通りの多い立地という立地条件もあり、子どもたちが遊ぶ姿はあまり見られない状況となっております。こうした中、近隣の保育園や町会からは、小さな子どもが伸び伸びと体を動かせる公園が欲しいといった声や、今後一定期間使用ができなくなる和泉公園の工事期間中に利用できる公園が欲しいといった声が寄せられており、駅側3分の1程度の範囲の改修を計画しております。今後、小さなお子様が安全で快適に過ごせる公園をコンセプトとして掲げ、地域の町会や保育園等の関係者で構成する秋葉原公園地域連絡協議会を通じて丁寧に合意形成を図りながら、令和9年度内の工事完了を目指し、設計、施工を進めてまいります。

説明は以上となります。

○桜井委員長 はい。ご説明いただきました。この件について、委員の皆様からご質疑がありましたら、頂きます。

○小林委員 まず改修箇所、なぜ250平米のここだけをやるんですか、全部やらないで。

○村田道路公園課長 計画に当たっては、現状のまず実態を把握することから始めました。その結果、岩本町駅からこの秋葉原駅までの乗換えに、この公園を横切るといった動線が非常に多く見られたというところもございまして、この駅の道路側ですね、道路側の部分は一般の通行に供するというような機能も保つべきではなかろうかというところで、駅側の部分3分の1のみを改修するというところで検討した次第でございます。

○小林委員 いや……

○桜井委員長 ちょっと待ってね。これ、手前のほうが駅側になるわけですか。

○村田道路公園課長 手前が道路側です。

○桜井委員長 道路側。あ、そうか。こっち側が、上のほうが駅側になるのか。

失礼しました。小林委員。

○小林委員 今回の説明、全然よく分からないんだけど、通りが多いという、ここは実際僕も何回も使っているんですけど、ちよくるのポートがあったりして、自転車が置かれていたりして、ちょっと煩雑に置かれていることがありますけれども、基本的にはどちらかというと公園の機能はないんですよ。ほとんどないんです、実態としては。それも調べられたんでしょ。そうすると、通行のどうのというよりも、公園自体を改修するという先ほどの二ーズの話で言えば、子どもたちが遊ぶ公園ってそもそも少ないんだから、ここを公園として有意義に使うとなったら、250だけじゃなくて全部やるべきだというのが僕の考えなんですけど、それをあえて700平米あるところを250平米しかやらないという理由が分からない。予算がないのか、何なのか。今の説明では、子どもに遊び場を提供したいのに、あえて少ないところしか改修しませんと言うと、なぜかと聞くのは、普通、なりますよ。その辺の説明をしていただきたい。

○村田道路公園課長 説明足らずなところがあり、申し訳ございませんでした。まず、今回コンセプトに掲げさせていただきましたが、子どもたち、特に未就学の小さなお子様が走り回れるような公園というところを目指してまいりたいと思います。そういったところ、事前に地域の保育園のほうにもヒアリングをいたしましたところ、250平米程度のスペースがあれば十分、保育園、そういったお子様たちが楽しんで遊び回れるというようなご意見も頂きましたので、スペース的にはこれぐらいで十分じゃなかろうかということを考えております。

また、先ほどご指摘がございましたが、今現在、ちよくるだとか駐輪場の置場にもなっているスペースとなってございます。こういった現状の機能もできる限り確保しながら、今後の公園機能を保っていきたいということも考えまして、全面改修ではなく部分的にということ考えて次第でございます。

○小林委員 あのさ、園児の使い勝手がいいのが250平米で、そこを満たしたら、せっかくある公園をあとの部分は改修しないで現状で使うということが分からない。公園に一度手を入れれば、もう公園なんて、30年、40年、手はかけないんですよ。この機会に、ここの調査をされてもそうだけど、駐輪場だってちゃんと造ればいいんです。ちよくるのポートだってちゃんと造ればいいんです。何か要するに自然発生的に、空いているから置いていて、で、どんどん増えていったちやっみたいなの話じゃ駄目なんですよ。

基本的に公園、どこの公園もそうなんだけど、例えばですよ、ちよくるのポートって、非常に後づけなんですよ。例えば芳林公園なんて後づけにするから入り口が狭くなる、すごく。で、何台以上止めちゃいけないというルールもないからどんどん増えていくんですよ。ここも同じです。使う人が使って、改修がなければ売れちゃうんですよ。そういうところを要するに整然とそろえていったり自転車の置場を造っていったりするなら、まだ公園整備の中で分かるけれど、250平米以外は全くいじらないんでしょ。いじるんですか。250、ほかのところもいじるの。

これ、あと、ここのところは通行という、本当に通行なんで、通行に期するようにパイロンがある、パイロンというか棒があるだけですよ。できている。だけど、ただ、これ、実際はこの両側の道路も機能しているんですよ。歩く人はそっちを歩けばいいんだよ。公園は公園として使えば有意義な公園が新しくできると。

ここの公園って歴史があって、本来は向こうとつながっていたんですよ、出張所のほうと。それをあえて小さくしたんですね、向こうを使う。今、防災船着場にもなっているところと実際つながっている面白い公園だったんだけど、地下は。くぐって行ける。それをあえて小さくして造っているんで、ここでせっかく改修するんであれば、もっと皆さんが使いやすい、ましてや子どもが増えているんだから、この機にそういう道路代わりに使うみたいな、駐輪場だけ使うとか、そういうことも整理しながら本来は造るべきなのに、あえて今の、要するに場当たりになっちゃうのよ、今言われたような。保育園のニーズがあります、そこに対応しました。じゃなくて、全体的に公園は少ないんだと。ましてや今言っているように和泉公園が何年もかかるわけでしょう。その代替に使うんだったら250平米でいいとは絶対言わないはずだよ。ちゃんと聞いたのかという話になっちゃう。

その辺はどういう調査をしたか知らないんだけど、その調査書を出してください。そして、僕、読み込みますから。それじゃないと、ここを250平米だけで、ほかを公園として生き返らせるということが必要ですから。ましてや今、子どもが増えていて、なおかつ公園が使いなくなると。一番大きな公園が使いなくなるという現状で、場当たりの対応だけではいけないと思うんで、その辺をちゃんと整理してご答弁ください。

○神原環境まちづくり総務課長 今、ちよくる、自転車駐車場の話が出ましたので、そちらのほうで私のほうからご答弁させていただきます。

今、小林委員がおっしゃられるとおりに、今回、子どもの遊び場を重点に整備のほうはいたしますが、今現状の機能といったものも継承していかなければいけませんし、多い歩行者の動線といったものも考えていかなければいけないといった中で、重点的にはやはり子どもの遊び場というものをゾーニングして造っていく。それと併せて現在の配置にございます自転車駐車場の移設といったものも当然出てきますので、全体の計画の中でそれは部の中で調整しながら、配置計画ですとか、どこを整備しなければいけないのかといったものは調整させていただきます。

○小林委員 ちよくるは分かったけど、あえて——委員長。

○桜井委員長 小林委員。

○小林委員 いや、ちよくるは当然そうなんです。課題がたくさんあるんで、それは整理、こういうするときに、ちゃんとした駐輪場の配置とか整理をしてやっていくのは、もうお願いしたいことです。僕の言ったのはそうじゃなくて、せっかく公園として今改修するなら、やっと使えるんですよ、ここの地域って。基本的に公園の面積って、要するに和泉橋地区の公園の面積って、ほかと比べてどうなっていますか。何対何ぐらいになっていますか。それで、なおかつその公園の面積の中で、今、和泉公園が使いなくなった。今の現状の一番大きい公園が使いなくなったときに、何%になるんですか、この和泉橋地区の公園は。

そもそも和泉橋地区というのは少ないんですよ。公共施設とかこういう公共の広場が圧倒的に少ない場所なんで、これはいい機会なんだと、このときに。それを今までと同じような使い勝手って、これ、公園として使えていないんだから。行ったことがありますか。部長はないね、行ったことね。ないよね。

行ってみれば分かるけれども、公園の機能を果たしていないですから、ここは。それをあえて公園の機能を果たすように、造り直すというすばらしいことをやろうとしているん

だったら、それをまた今までの機能を重要視してやったら意味のないことになっちゃうんです。

だからもう、はっきり言いますよ。スペースとして和泉橋地区にどれぐらいの公園があって、その面積はどれぐらいで、その面積を、この公園を、遊び場としてはもう使えていない公園なんだけど、その中で貴重な面積をこれが入るとどれぐらい有益になるのか。というか本当に俯瞰的に見てくださいよ。少ないんだから、和泉橋地区は。なおかつ学校、公園を、和泉小学校を建て替えるんで公園が使えないんだから。やっとやってくれたんでしょ。だったらもうちょっとすばらしい公園を整備していくというのは、普通考えるとそうなるんだけど、それをあえて250平米で十分できますとこれを出されたら、いや、これ、もうちょっと下さいと言うのは普通だと思いますよ。その辺、ちょっとちゃんと整理して答えて。

○加島環境まちづくり部長 もちろん行ったことがあります。昔、これは佐久間橋で。

○小林委員 そうです。

○加島環境まちづくり部長 はい。で、公園が段になっていて、G1から少し下っていたんですよ。私はその時期から知っていますので。そのときはどちらかというと子どもさんの公園だったかなと。

○小林委員 遊具もたくさんあったよね。

○加島環境まちづくり部長 ええ。それが、G1まで上げて、どちらかというと駅前の広場的な存在になってしまったかなといったようなのが状況です。

多分、この250平米というふうに今書いてありますけど、近隣の保育園だとか幼稚園だとかが、謙虚に、このぐらいあればというような形で言われたんじゃないのかなと思いますので、今の委員のご指摘はもっともだなというふうに思いますので、協議会の中で、まだこれ、図が描いてあるわけではなくて、これはイメージとして出していますけれども、来年度こういったことをやるので、正直、予算に反映させていただきますというのが今回のところなので。

○小林委員 頭出し。

○加島環境まちづくり部長 はい。来年度に設計に入るときに、そういったことを踏まえてやる必要があるだろうなというふうに今思っておりますので、そこで、すばらしい公園になるようにということでご期待していただけるとありがたいですし、また、ご協力をしていただけるとありがたいなというふうに思います。

○小林委員 公園の、これはちょっと話を大きくしちゃいますけど、この250平米は、要するにフェンスを作って隔離するでしょ。そうしないと園児がどこか行っちゃったり、あれする。ここだけをそうするのか。要するに、全部をすると全部が公園になるんですよ。全部をフェンスで持っていけば。そうすると、もちろん先ほど言った大切なちよくる、僕もお世話になっているんで、ちよくるもポートも必要ですよ。もうそういうのも区切りながら、やっぱりフェンスを作っていくことによって、公園として生き返るんです。ここを今生き返らせようとしているのは250平米だけ。フェンスを作れば全部が公園になる。要するに遊具も含めてそうなんですけれども。

その辺は、やっぱりこういう手がけるときに、どういう発想で行くかも、要するにフェンスを作っていくのか。すばらしい公園を神田橋に造られるでしょう。ああいうすばらし

いのを造っていたところに、できればあんな遠いところじゃなくて、近くにもあったほうがいいのかもしい。いいんですよ、実際はね。こういうふうに鳥籠を作るかどうかは別としてね。そういう要するに公園自体の考え方を今のあれに合わせていく。本当にニーズ、何とか賞を取ったと何かよく言われますけれども、賞を取るのはいいいことじゃないんですよ。それは、結果、賞を取れたのは、それはすばらしいけれども、使いやすい、今の子どもたちに使いやすい安全な公園をこの際造ると。これ、フェンスを作らないとがんがん入っちゃうから、もう安全じゃないから、子どもたち、安全じゃないとは言えないけれど、安全じゃないことも起きるから、それは公園としての区切りでフェンスを。これは今、道路として使っているからフェンスをつけていないだけで、道路は道路と分ける。ちゃんと道路、二つあるんだから、そこは道路と分ける。たくさん要するに、今、和泉公園のところを含めて、日通の本社ができたりして人流が増えて、あのラインはすごく人が増えているんですよ。あそこの狭い歩道に比べればここは広いからね、比べると。そういうのを総合的に考えられてこれから取り組んでほしいんです。

予算にも関係します、フェンスを作るのであれば。その辺も、部長にせっかく答弁いただいたんで、皆さんが喜ぶ公園で考えていくということを進めてほしいと思いますけど、いかがですか。

○村田道路公園課長 ご意見をどうもありがとうございます。まだ我々の検討も構想段階ではありますが、委員がおっしゃられたように、この公園は、未就学、小さいお子様が主に遊ばれるということを想定しておりますので、小さなお子様のセキュリティー、もしくはプライバシー、こういったものをしっかり確保しなきゃいけないというふうに考えておまして、そのためにはフェンスが必要ではなかろうかなということは考えてございました。

また、夜、この秋葉原のまちというのは非常に大人の往来が活発になるまちというふうに認識しておりますので、フェンスを設置し、さらに施錠管理、こういったことまで必要になってくるのではないかなというところまで今考えているところではございます。

○小林委員 最後にします。ここの公園ってオープンなんですよ、すごく。これはご存じのとおり。たばこも吸われるんです。ここで座っているのを僕はよく見るんで、たばこも吸われるんです。そんなこともやっぱり一つ、要するに立地上、ここは非常にやっぱり多いです、秋葉原ですから。人通りもどんどんこっちに来ているんで、多いんです。その辺も考慮すると、やっぱり安全な公園を造るためには、予算措置をしてフェンスを作るなり、総合的に、ちよくるのポートもちゃんと区切るなりしてって、これ、うまくやらないと、本当に、直して渋滞を起こしてもしょうがないんで、それも含めてそうなんですけど、その辺はもう一度ちょっと考えてもらって、もう、まちにも聞いてもらって進めていただきたいと思いますが、いかがですか。

○村田道路公園課長 現状、この秋葉原駅前であるこの公園というのは、非常に、先ほど申しましたように大人が多く出歩く場所ということで、そこに小さいお子様が遊べるような公園を造るというのは非常にチャレンジングなことなのかなというふうに思います。ただ、こういった貴重な公園施設というものを有効に活用していきたいというところで、今回こういった取組を行わせていただこうというふうに計画しておりますので、ぜひそういう立地だということをしっかり認識した上で、お子様たちが安全・安心に遊べるという

しつらえにしていくよう、今後、地元とも調整しながら検討を進めてまいりたいというふうに考えております。

○桜井委員長 はい。今後の予定のところにも書いてありますけども、令和8年度については、「秋葉原公園地域連絡協議会にて合意形成を図りながら具体的な検討を進め」ということで書かれてございますので、また、この当委員会のほうにも報告を頂くものがあれば、頂きたいと思います。よろしくお願いします。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。じゃあ、次、行きます。3番目、和泉小学校・いずみ子ども園等施設と和泉公園との一体的整備構想（素案）に対するパブリックコメントの結果概要について、報告してください。

○村田道路公園課長 和泉小学校・いずみ子ども園等施設と和泉公園との一体的整備構想（素案）に対するパブリックコメントの結果概要について、ご説明いたします。資料番号03、環境まちづくり部資料3-1をご覧ください。本件は11月の環境まちづくり委員会でもご報告させていただいたパブリックコメント実施の結果報告となります。意見募集期間は昨年12月5日から22日まで、4名、1団体から計33件のご意見を頂きました。

公園に関する主な意見につきまして、資料番号04、資料3-2でご説明いたします。まず公園の整備内容に対する要望を頂いております。例えば②ではバスケットゴールが欲しい。また、⑮ではベーシックな遊具を置いてほしい。⑯遊具やベンチ等は長く使える素材を使用してほしい。⑳天然の芝生、㉑日除けやクールダウンできる場所、また、㉓ではじゃぶじゃぶ池にウエイトを置き過ぎなくてもいいのではないかと。こういったご意見も頂いております。これらに対して区としては、頂いたご意見が反映できるかも含め、今後の公園設計の中で地域の皆様と意見交換等を行いながら検討していきたいと考えてございます。

続いて、③では工事により長期間和泉公園が利用できないことに対する心配の声も頂いております。これについては、周辺の公園、校庭、未利用地等を有効に活用するとともに、さらなるスペースの確保も視野に入れながら和泉公園の機能を補っていく考えでございます。

パブリックコメントを受けての大きな修正はございませんが、構想案を資料番号05、資料3-3で参考までに添付させていただいております。

説明は以上となります。

○桜井委員長 はい。ご説明を頂きました。この件について、委員の皆様からご質疑がありましたら、頂きます。

○小林委員 パブコメを取られて、対応していかれると思うんですけど、交換することによって、動線、人の動線がどう変わるのか。要するに今真ん中で病院に行くラインもありますよね。含めてそうなんですけど、先ほどもちょっと申し上げましたけれども、日通の本社が来られてもう3年ぐらいになりますけれども、この人流が動いて、本社にも、僕も日通の本社の総務の方とお話ししたんですけれども、非常に協力的で、今は回ってくれているんですよ。

この前から何回も指摘しているんだけど、交差点の位置を検討しなくちゃいけない時期



に來ているんで、今の段階から、ちょっとやっぱり人流調査も改めてしていただいて、要するにどこに交差点を動かすのか、増設するのか、その辺も含めて、どれが一番子どもたちの安全に対していいのか。保育園のところはほとんど信号無視ですので、ほとんどの保育園の自転車は回ってきませんので、これ、そのままぱっと行っちゃうんですよ。そういう実態もつかんでもらって、どこにどういうふうに、やっぱり交差点を移動させたりするの、これ、千代田区だけじゃできないんで、警察、本庁との関係も出てきますので、その辺も今から話をしていけないと間に合わないですよ。特に信号はつけられないんで、その辺も要するに区としての課題、自転車道が非常に中途半端なんですよ。ご存じかと思いますが、なくなりますから。そこところは、だからそこがなくなっちゃうんで危ないから、そこに一旦止まるように交差点をつけてくれというのが地元の要望だったんですね。

それも含めて、改めて人流というか、動線調査、人の人流調査をこれに合わせてして、必要に応じてやっぱり関係諸機関と打合せをしていくということをしないと、はいできませんでした、はい不便ですと、危険ですというのを区から造っちゃいけないと思うんで、この機会が一番いい機会なんで、その辺をどうか検討されてほしいと思いますけど、いかがですか。

○村田道路公園課長 ご意見をどうもありがとうございます。委員がおっしゃるように、確かに位置が変わることによって、現状でも課題がある中で、さらにその状況が変わるということも想定されると思います。今現在、公園内の人流調査というのは行ってはいるものの、その周りの道路ですね、道路まで視野を広げて、実際どのような交通実態なのかという現状を正確に把握するとともに、今後の人流についても予測を立てて、事故等が起きないように交通形態というところを検討していかなければならないということは認識しておりますので、今頂いたご意見を踏まえて、今後検討を進めてまいりたいというふうに思います。

○桜井委員長 うん。大切なこと。

ほかに。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。この報告を頂いたこのパブリックコメント、今回出てきたわけでございますけども、とてもこの事業についても非常に大きな事業だし、大切なところですよ。ぜひ、今、課長がおっしゃられたように、子どもの安全・安心に資するような計画になるように、ぜひ考えてやってください。また必要とあればいつでもご報告いただいて、よろしくお願ひしたいと思います。

よろしいですか。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それじゃあ、次、行きます。4番目、さくら基金に関する取り組みについて報告してください。

○村田道路公園課長 さくら基金に関する取り組みについて、資料番号06、環境まちづくり部資料4をご覧ください。

これまでさくら基金への募金にご協力いただいた方々をはじめ、千代田区の桜を楽しみにしている皆様に対し、さくら基金の活用について見える化し、より興味を持っていただけるよう、ホームページの内容を充実させてまいります。例えばさくらの維持管理に關す

るページでは、コスカシバという、桜に被害を与える害虫を寄せつけないための対策や、弱った樹木を自然の回復力を助長して治療する取組など、皆様からの募金が桜の健全な生育にどのように役立っているかをご紹介します。第一弾の更新は今年3月5日に予定しておりますが、弱った桜の植え替え工事の実施報告など、生育状況の改善などを随時お伝えできるよう、レイアウトや内容を工夫しながら更新を図ってまいります。

説明は以上となります。

○桜井委員長 はい。ご説明いただきました。この件について、ご質疑はございますか。よろしいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、次、行きましょう。5番目、千代田区食品ロス削減協力店登録制度について報告してください。

○千賀千代田清掃事務所長 それでは、資料番号07になりますが、環境まちづくり部資料5でございます。千代田区食品ロス削減協力店登録制度についてご報告いたします。

こちらの制度でございますが、1の課題・背景に事業目的等を記載させておりますが、千代田区の特性でございます事業者のごみ総量を減らすということ、それをうたっておりますのは、昨年3月策定の第5次一般廃棄物処理基本計画、あるいは令和5年度に策定いたしました千代田区食品ロス削減推進計画等、こちらにも掲げておりますそういった施策の一環として進めるというところでございます。

さらに、昨年開催いたしました食品ロス削減全国大会、これを契機といたしまして、区民・事業者・区が協働して食品ロス削減に取り組む具体的な事業として実施をしていくというところでございます。

その内容でございますが、3の事業概要のほうをご覧くださいと思います。こちらは、事業名、千代田区食品ロス削減協力店登録制度と名称をうたっております。対象は区内の飲食店でございますが、食事を提供する宿泊施設ですとか食料品を販売する小売店なども広く含まれるというところでございます。事業内容につきましては、こちら、申請をしていただきまして、そちらの四角囲みのところがございます9項目のいずれかに取り組む飲食店を区が認証し、PRの資材等の配付を行っていくというところでございます。こちらの項目、例えば①は小盛、ハーフサイズメニュー等の提供、それから④番の食べ残した料理の持ち帰り希望者への対応、それから⑥番などの閉店時間間際等の値引き販売といった、既に区内の各店舗でも取り組まれているようなものがございます。そういったものをご申請いただいて、そういうものを引き続き継続するというのであれば、認証していくというところでございます。

次に、4番、区による支援内容を具体的にご説明いたしますが、（1）と（2）でございますが、登録を表す、表象するステッカー、PR用ポスターの配付、そちら右手には図案、まだステッカー案でございますけども、そういったものを共通のものを配付させていただく予定でございます。また、（2）番といたしましては、区のホームページで登録店舗一覧を公開して、具体的な取組などもその中で紹介をしていきたいということで、区から積極的な発信を行っていききたいと思います。

最後、5、スケジュールでございます。こちらの制度に関しましては、昨年12月に要綱を制定いたしまして、現時点、食ロスに関わる事業者等にもお声がけを始めておりまし

て、例えば10階の食堂なども今お声かけしております、ご検討を進めていただいているというところでございます。また、今後になりますけど、2月には広報のほうに掲載を予定して、広く募集を開始していきたいということでございます。また、3月にはフードシェアリングアプリ事業者との連携も予定をしておるというところで、以下、今後進めていきたいというところでございます。

説明は以上でございます。

○桜井委員長 はい。説明を頂きました。委員の皆さんからご質疑はございますか。

○大坂委員 新たな取組というところで、食品ロスの削減というのは非常に大きな課題になってきているのかなというふうに認識をしていますので、それに向かって着実に進めていただいているのかなと、応援をしているつもりではあるんですけども、やはりちょっと今説明を聞いても、これが実際本当に区内食品小売店だったりだとか飲食店の食品ロス削減に本当につながっていくんだろうかという疑問が拭えないといいますか、一つ一つの項目がどういうふうにそれが実現していくのかというのがなかなか見えてこないものですから、もう少し詳しく伺いたいところではあるんですけども、まずこの認証のための項目ですよね。これ、一つ一つ細かく規定されていて、9個挙がっているんですけども、どれか一つでも該当すれば認証していただけるということであれば、例えばこの①番の小盛、ハーフサイズメニュー等の提供というところを取ってみると、例えばマクドナルドがポテトのSサイズを出しているよね。これでもう認証されちゃうんじゃないかなとか、基本的にどこの飲食店でももう既に取り組んでいるんじゃないかなというようなイメージがあるんで、逆に排除されるところのほうが少ないんじゃないのかなというふうな印象があるんですけども、その辺はどういう考えの下、この項目を制定したのか。その点をまずお聞かせください。

○千賀千代田清掃事務所長 そうですね、こちら、まずこちらは9項目なり挙げているところでございますけども、どれか一つをまず取組をしていただくところがあれば、認証のほうにしていきたいというところでございます。

それから、どういうレベル感というところもあるかと思いますけども、まさに新たにこれから進めようというところがございましたら、そういうところはしっかり認証していきたいというところがございます。そういうところ、例えば飲食店さんが今後そういう方向で何か食品ロス削減のメニューを今後展開していきたいときに、まさにこの認証を申請いただいて、申請に応じてこの区のホームページ等でご紹介をしていただくというところ、ある意味お店にとっても宣伝効果等も期待できるというところがございますので、そういったところで、各店舗さんのいろいろな展開、お店のメニュー展開をするきっかけにさせていただくというところ、それを踏まえて広く食品ロスの取組が区内で進んでいるということを周知していくところにつなげていきたいというところが効果でございます。

ちょっとこれからいろいろ、いろんな店舗さんにこういった対応ができるかというところは個別にご相談に応じて、できるだけそういうところに、取組にご協力いただくように対応していきたいと思っております。

○大坂委員 区のホームページ等で宣伝をしてくれるというところが一つのメリットになるというところだと思うんですけども、実際それが本当に宣伝効果として認められるのかというと、非常にそこは疑問に思うところではあります。

もう一つ、元も子もないことを言ってしまうんですけれども、ステッカーを今回貼っていただくじゃないですか。こういったいろんなことに対して積極的に事業者さんにやっていただいている、様々なステッカーがもう既に貼られているお店があるわけですよ。かなり散らかってしまって、それもあまりきれいじゃないよねというような意見もある中なので、果たして本当にそれがこの食品ロスに向けて正しい一手なのかというところがやっぱり非常に疑問に残ってしまうんですね。もちろんやらないよりやったほうがいい。これはもう間違いないことなんだと思うんですけれども、それよりももっと踏み込んで、例えば飲食店で食品ロス削減に取り組むためには、どういったことを気をつけてやっていかなければいけないのか、どういったこと、どういった工夫ができるのかとか、そういったノウハウを恐らく清掃事務所のほうでしっかりと、あるかどうか分からないですけれども、例えばコンサルタントなんかと連携をしながら、そういうメニューをしっかりとつくっていくことで指導していくとか、協力的に取り組を進めていくというような枠組みが本来あるべきなのかなと思うんですよね。

だから、そこに登録していただいたお店には、そういったサポート、こういうやり方ができますよ、このお店だったらこういうやり方をすればもっと食品ロスができますよというようなメニューをしっかりとつくって、実際に削減をするというところまで持っていくというところまで踏み込んでいくと、非常に宣伝効果も、それによってお店側のメリットというのは上がってくるんじゃないのかなと思うんですよ。ただ単に、ハーフサイズのメニューを出しているから、持ち帰りを許可しているからとか、そういったことだけでお店の名前が並んでいても、基本的にそれはどこの店も対応して下さることだと思っているので、確かに意識が高いお店なのかなというのはあるかもしれないですけども、そこまで踏み込んだ形でやっていただいたほうが、千代田区らしさというか、一歩進んだ食品ロス削減策になっていくんじゃないのかなと感じるんですけれども、いかがでしょうか。

○千賀千代田清掃事務所長 大坂委員からのご指摘は、本当に本質的に食品ロスを進めていくというところで大変重要なご指摘かなというところでございます。今回も、私どもも具体的に今こういう食品ロスに取り組む事業者さんがどういったところか、あるいはこれまでそういう事業者、全国的にどういうふうに展開しているのかというところはまだ情報が十分ないというところでございます。先般の食品ロス削減全国大会をきっかけに、あらゆる事業者さん、全国的な企業ですとか、そういうところとのつながりもできたというところで、そういったところの情報も得ながらこの事業も進めていくというところは一つございます。個別にそういった各事業者さん、あるいは各店舗さんのご相談等がございましたら、個別には応じるというところはございますけれども、何かそういったところをつないでいくという役割も、今後、所管として担っていくべきかなというところはございます。

また、区商連さんですとか飲料組合さん等、そういう区内の団体さん等も連携を図りながら、そういう情報の交換をして、少しでも食品ロスというところの意義というところをまず理解していただくというところ、こういうところを進めていくというのは、この事業とともに考えていくところかと思っておりますので、そのように進めていければと思います。

○大坂委員 ぜひ進めていっていただきたいと思っているんです。というのは、ちょっと話は飛んじゃうのかもしれないですけれども、ごみの削減が非常に重要で、特にこの年末

年始にかけて、都知事のほうから、ごみの有料、家庭ごみの有料化という話がぽんと話題として出てきちゃったじゃないですか。これが今後どういうふうな採用をするかは分からないですけれども、そうした中で千代田区ってやっぱり事業系のごみが多い。特に飲食店も多いとなると、そのところのごみが削減されていないから家庭ごみが有料化されてしまうというようなロジックになりかねないんですよ。やっぱり有料化、もしなってしまうのであれば、その前にしっかりと、そうならないように食品のごみの削減というのはしっかりと本気で取り組んでいかないと、区民の方にちゃんと説明できないじゃないですか。そういったところもあるので真剣に取り組んでいただきたいというのが今回の趣旨であったりもするんですよ。

まだ全国大会をやっていろいろと情報収集しながら一步一步進んでいくんだよということだと思うので、今日を出発点にして、そういった取組に本気で取り組んでいていただきたいなと思っているんですが、いかがでしょうか。

○千賀千代田清掃事務所長 そうですね。まず、ちょっと、有料化というところに関しては、特にこれ、何も決まっているというところではないのでございますので、また23区全体で共同処理をしているというところがございますので、今後、23区全体での議論に合わせてというところが当区の今の現在の認識でございます。

それを踏まえても、先般策定いたしました一般廃棄物処理基本計画、一廃計画では、ゼロ・ウェイストちよだということで、究極ごみを減らしていくというところを目指しております。そういった中では、今回のこのメニューの中でも、⑦番の食品リサイクル施設における食品廃棄物のリサイクル処分ということで、いわゆる生ごみをそのままごみとして出さずにリサイクル展開できる。こういったところ、これは決して消費者の皆さんに直接効果があるというところではないんですけども、私どもとしてはこういったところの取組もしっかり進めていく必要があるかなと。特にごみ削減、リサイクル、再利用というところを踏まえると、これは重要なところがございますので、こういった点の取組なんかも併せてしっかり情報の共有ですとか情報の展開、発信をしていきたいというふうに、そういった形で事業を進めていきたいと思います。

○大坂委員 しっかりと進めていただければと思います。

もう一点ちょっとお伺いしたいのが、このスケジュールの一番最後のところに、唐突にこのフードシェアリングアプリ事業者との連携開始と出てくるわけなんですけれども、これと、この今回の食品ロス削減協力店登録制度というものとこのフードシェアリングアプリの関係というのが今の説明の中で見えてこないのと、このフードシェアリングアプリについては、昨年度導入予定の予算を組んで、まだ実際導入がされていなかったというふうに伺っているんですけども、その辺りの流れといいますか、考えていることをお聞かせいただければと思います。

○千賀千代田清掃事務所長 すみません。フードシェアリングアプリについてでございますけれども、こちらは具体的にどういうものかといいますと、例えばお店で売れ残って廃棄せざるを得ない食品が出る際、その食品を小売店が値引きして販売するという。それに別な登録されたユーザーの方が買うといった、そういったマッチングのシステムというふうになっております。区としてはアプリ事業者さんと連携するというところで、さらに個々の店舗さんは事業者と契約をするという形にはなるんですけども、今回、区がこうや

って食品ロス削減協力店の制度を開始するに当たって、このアプリ業者さんと連携をし、またアプリ業者さんでもそういう展開をするということで、相互にそういった発信をしていくというところがございますし、また、アプリ事業者さんを通して、先ほどではないんですけど、そうした食品ロス削減の取組の情報の交換なども期待できるというところがございますので、そういった意味で導入を予定しているというところがございます。

○大坂委員 ちょっとよく分からなくて。そもそも導入を今見送られている状態というふうに伺っているんですけども、既存のアプリを千代田区が導入したときというのは、それは千代田区のアプリが出来上がるというようなイメージだと考えていいのか、それとも、今既存のサービスで世の中にはフードシェアリングのアプリってあると思うんですけども、そこに単純に乗っかっていくだけのイメージで考えたらいいのか。その辺もちょっと不透明なんですけども、その辺りは今どういうふうに、進捗状況も含めてどうなっているのか、お願いします。

○千賀千代田清掃事務所長 すみません。こちらのアプリについては、既存の展開しているアプリに千代田区も連携をするという予定でございます。そうですね、今、特定のアプリ業者さんと今調整をしているところでございまして、連携後、協定を結びまして、そこに千代田区も加わっていくというところでございます。

○大坂委員 その事業者さんの名前というのは、まだ公にはできないというイメージなんですかね。

○千賀千代田清掃事務所長 今、内々ではございますけども、「T A B E T E」という事業者さんでございまして、既に30自治体ほどとそういう連携も進んでおりますので、同じように千代田区も入っていくという予定でございます。

○桜井委員長 その30の中には23区は幾つぐらい入っているんですか。

○大坂委員 結構入っていますよね。

○千賀千代田清掃事務所長 今、ちょっと即答はできませんけど、数区入っているというところです。

○桜井委員長 大坂委員。

○大坂委員 ありがとうございます。既に千代田区内の事業者さんでもこれは利用されているところもありますし、私なんかも、よく使っているお店なんかでも、アプリ登録するとその店名が見えたりとかというのがあるので、アプリとしてはかなり浸透はしてきているのかなという認識は持っています。

ここの連携というところで、なぜ出てくるのかなというのが分からなかったのが、要はこの登録制度に登録したお店に対して、シェアリングアプリに登録するようにあっせんをするようなイメージに見えてしまうんですが、そういうことを考えていらっしゃるのか。それとも何かもっと違う相乗効果を期待してここが二つ併記をされたのか。その辺りの基本的な考え方はどのようになっているんでしょうか。

○千賀千代田清掃事務所長 こちらですけども、連携をして、即必ずここを利用してくださいというところは特にはないんですが、こちらの事業者さんも、区内に関わる店舗から相談があった場合は、区のこういった登録制度のご案内もしていただくことになりまして、区側としてもこういうアプリの利用というところのご説明もするというところで、そういった中で、相互で持っているそういった区内飲食店の情報、あるいはそういうそれぞれのネ

ットワークといいますか、そういったものが協働できるかなというところの期待はございます。

主にはそういった形で、やはり食品ロス削減、個々に取組を進められているところは多数ございますけれども、そういった情報ですとか、あるいは手法というところがまだ十分にいろんなところに波及していないかなというところはございますので、これは区としてもそういった取組、あるいは個々の個店がそういう取組を進めたいところにしっかり情報提供していくという、そういう役割はしっかりこの連携で担っていきたいと思っております。

○大坂委員 ありがとうございます。まさに一番最初に私が言った、食品ロスを削減するためのノウハウをしっかりと水平展開できるように取り組んでいきたいと思いますというところだと思うんです。今おっしゃったことというのはまさにそのことだと思いますので、アプリの利用云々を増やすことも大事だとは思いますが、各お店がこういった形で取り組んでいけば食品ロスにつながっていくのかというものを、しっかりと清掃事務所として把握をして、情報提供を個別個別にもできるぐらいのノウハウを持っていただくということが一番大事なのかなと思いますので、そういった考え方でやっていただければいいのかなと思います。

○千賀千代田清掃事務所長 ご指摘を頂きまして、本当に食品ロス削減というところの認知を広げて、あらゆるお店で取り組んでいただけるように、しっかり情報の収集や提供を進めてまいりたいと思います。

○桜井委員長 はい。

ほかに。

○岩田委員 大坂委員も言っていたみたいに、ステッカーは、これはちょっと確かに目立たないですね、この色はね。お店に入るときに、VISAカードとかJCBとかアメックスが使えるとか、ステッカーをぺたぺた貼ってありますけども、それと比べてやっぱり色とかも、まあ、地味と言っちゃ地味ですよ。

それは置いておいて、ちょっとこれは応援する意味でも、この四角囲みの例えば③番、食べ残しを減らすための特典の付与。あるお店で、神保町で、もうなくなっちゃったからいいかな。天丼「いもや」というのが昔あったんですよ。もう学生の味方みたいなようなお店で。そって、食べ残しをしないと50円引いてくれるんですよ。何か普通盛りだと600円で大盛りだと650円だけでも、全部食べると50円引いてくれる、みたいな。そういうの、皆さんお金に敏感ですから、そういうのがあれば、こんなステッカーじゃなくても、POPで「食べ残ししなければ50円引きしますよ」みたいなのをぽんっとやれば、そのほうが目立つんじゃないかなと思うんですよ。一応応援する意味で、と思うんです。

○千賀千代田清掃事務所長 委員の、かつての有名店の取組であったかなと思います。区として直接そういうことを推奨するというのはなかなか難しいところはございますけれども、各個店でそういうこと、具体的なところを取組をされている場合、ホームページ等でもしっかりご案内をしたいというところはございます。それは各個店さんとのご相談に応じてというところになりますけども、対応してまいりたいと思います。

○岩田委員 もう一つは、ごみを少なくするためにも、生ごみを減らす、何でしたっけね、機械があったじゃないですか。あれのさらなる普及とか、そういうのをぜひお願いしたい

と思います。あれでゴミが、ここの区役所の食堂もあるじゃないですか。今導入していますよね。あれもゴミがぎゅっと少なくなると。そういうのを普及できるように、区としてもさらなる試みをお願いできればと思います。

○千賀千代田清掃事務所長 そうですね。今、生ゴミ処理機の事業系の補助のほうも昨年より展開をしているところでございます。そこも、この7番にも該当し得るものということで、併せてそういった導入もご検討されている場合は、こちらの登録店制度とも併せてご案内をしたり、また導入を進めていただいたりしていきたいと思います。

○岩田委員 その導入を進めるに当たって、区としても、まあ、何でもかんでも補助金と言うとあれですけども、少しは安く買えるようにしていただければなと思うんですよ。そしたら事業者も買ってくるんじゃないかな。だから、補助金を出すとかじゃなくて、例えば、あくまで例えばですよ、メーカーさんから1個、2個じゃなくてまとめて買う。それを、まとめて買えば安くしてくれたりするわけじゃないですか。そういうのを希望者に販売するというか、そういうようなことというのはできないかなと思うんですよ。だから、在庫なんかを持っていると大変だから、聞き取りをして、どうですか、今だったら何万円が何万何千円になりますよみたいな、そういうのを聞き取りをして、希望者にそういうのを何かチェックしてもらって、その数でまとめて買うというようなやり方というのはできないかなと思うんですけど、難しいですかね。

○桜井委員長 以前は飼料になるものに補助金を出していませんでしたか。

○岩田委員 うんうん、はい。

○千賀千代田清掃事務所長 コンポスト。

○桜井委員長 うん。それ、やっていたよね。

○岩田委員 うん、やっていました。

○桜井委員長 それはやっているんだよね。（発言する者あり）えっ、今はやっていないんだ。今はやっていないの。（「生ゴミ処理機の……」と発言する者あり）うん、そうそうそう。だから、そういう同じようにできないんですかと。過去にそういう経緯があるんだから。

どうぞ。

○千賀千代田清掃事務所長 ちょっと。すみません。

○桜井委員長 清掃事務所長。

○千賀千代田清掃事務所長 すみません。昨年から始めた生ゴミ処理機の助成、補助に関してですけども、それに関しては、1事業者に2分の1で200万円という、ちょっとかなり大型、大型というか比較的大きい額までの支援ができるようになっておりますので、基本的にはそちらのほうのご利用を推進していくというところがございます。全部一気に買うというところはなかなか、区としてなかなか難しいところではございますけれども、そういう支援制度も十分あるんだというところ、こちらはまだちょっと周知のほうに十分されていないというところも、我々は反省も踏まえつつ進めてまいりたいと思います。

○桜井委員長 はい。

よろしいですか。小野委員。

○小野委員 今回この9項目ある中で、いずれかに取り組む飲食店ということで、それぞれ結構取り組まれている内容はあるかなというふうに思いながら拝見していました。ぜひ



これ、しっかりと進めていただけると、間違いなく減るのかなというふうに期待をしております。

多分この中で一番ハードルが高いのが、④番の食べ残した料理の持ち帰り希望者なのかなというのを何となく思っているんですけど、ここについては食品衛生上の課題とかそういうのをどのように、例えば保健所との連携ですとかいうことをされているのでしょうか。

○千賀千代田清掃事務所長　こちら、食べ残した料理の持ち帰り希望者の対応ということです。いわゆるテークアウトではないんですけども、食べ残した分を持って帰れるかどうかというところがございます。こちらは厚労省のほうでもガイドライン等を示して、それに応じて、ある程度食べ残しても、衛生管理をしっかりとするというところも踏まえて、持ち帰れるようにというところの今展開をしているところでございます。ただ、各事業者さんについては、持ち帰るというところのやっぱり食品の品質の保持等が難しいというところで、なかなか難しいところでございますが、そういったところ、持ち帰れるような食品があれば、あるいはそういうご相談があれば、私どもでも保健所のほうともちょっと連携をして、確認をした上で、お店のほうの展開に協力をしていきたいというふうに考えております。

また、ちょっとこちらに関しましては、こちらの協力店の中には、今、区では、「m o t t E C O」という箱なんですけども、持ち帰り用の箱を、そういう取組をされる場合にはちょっと幾つかご提供するというところも考えておりますので、併せてそういった事業者さんの相談には対応してまいりたいと思います。

○小野委員　ありがとうございます。このm o t t E C Oをぜひとも広げてほしいなと思います。おっしゃるとおり、基本的には厚生省が出しているのは、もう当事者の責任で持ち帰ってくださいということとか、あと火の通っていないものは持ち帰らないでくださいとか、意外とガイドライン的に示されてはいるものの、やっぱり飲食店によってはリスクのほうに先に立って、火が通っていて間違いなく大丈夫だろうと思うものであったとしてもちゅうちょされる場合があると思いますので、最終的にはお店の判断になると思うんですけれども、ぜひそうした背景もしっかりと理解をしていただくという周知が、一番協力店を募りやすいのかなというふうに思いますし、また、ここが減ることによって、いわゆる生ごみが減っていく。先ほどありました生ごみ処理機というのももちろんあるんですけれども、その前段で、そもそも生ごみを出さないようにしていくというところで、ぜひともご尽力いただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。

○千賀千代田清掃事務所長　その旨、個店の皆様のご相談に応じて、しっかり対応してまいりたいと思います。

○桜井委員長　小林委員。

○小林委員　食品ロス削減全国大会が去年の10月30日に大手町プレイスで行われて、私もこれには参加させていただきましたけれども、この食品ロスに対する全国大会の千代田区でやったことの意義ってすごく大きいと思います。なおかつ、ここで発表されたことや展示されたものやなんかは、すごく食品ロスに対する、やっぱり全国大会だけあって、示唆するものがたくさんあったと思うんですけど、この全国大会から何を学んでこの登録制度をつくったんですか。

○千賀千代田清掃事務所長　たしか全国大会後にこちらの制度を展開するというところは

ございましたけども、こちらの制度に関しましては、今年度並行して進めていたところがございます。ただ、そういった個店への周知等というところが、やはりなかなか我々の清掃事務所という単位でも難しいというところがございました。食品ロス削減全国大会では幅広く、例えば先ほどご案内しましたように、商工関係、飲食関係の事業者さんにもお声かけなどをしております。そういったところの、一つはこれからもつながりを持っていくというところもございます。そういったところが、今回、食品ロス全国大会の成果ということ、それからまた登録店の、今回の協力店のご案内につながっていくものというふうに考えております。

○小林委員 そうじゃなくて、これが、すばらしい取組を全国がしている中でのいい事例がたくさんあったじゃないですか。それを基にして、ここのところの、先ほど非常に9項目ありましたけれども、こういうところからこの9項目に入ってきているものはあるんですか。要するに全国大会をやったというの、この全国大会自体は最新じゃないですか。一番進んでいることをやったわけでしょ、ここのところは。それでそれを表彰までしているし、それから個店が入っていないんだよね、これ。ホテルやなんかは多かったんだけど。そんなところからも含めて、この登録制度に生かされることがたくさんあったと思うんだけど、それは具体的に何ですかと聞いている。

○千賀千代田清掃事務所長 そうですね、委員にご指摘いただきました最新のものというところがあるかないかというところでございますが、これ、最終的にこの制度、今回の要綱を策定するに際しましては、いろいろ最新のケースもあるというところはございましたけども、基本的に一般の店舗が展開し得るようなものというところでちょっと整理をしたというところで、最新のものは特に入れておりません。ただ、⑨番のその他認めるものというところ、項目がございますので、そういうところで、今後、新たな取組、あるいは個別のユニークな取組等があれば取り入れてまいりたいというところは、しっかり踏まえておるところでございます。

○小林委員 ⑨番に反映させるということでご理解しましたけれども。

一つ、そんな、文句を言っているようなふうに聞こえちゃうといけないんで、いいこと。ここでもまたやってほしいこと。お願いしたときに、このときって小中学校から標語とかポスターのご協力を頂いて、それを所長、清掃車に貼ってくれたんですよ。で、区内を巡回してくれたという、やっぱり新しいことをお願いしたことを具体的にやっていただいた。非常にいいことで、それを見て、やっぱり啓発活動の一環としては非常によかったと思うんです。区役所としては、清掃事務所みたく清掃車が毎日走るようなところで啓発活動が併せてできるっていいことなんで、そういうことを生かしていくと、今回の場合も、先ほど何がよかったのかという、要するにこれをやることによってどういう利益があるのかとかいうのであれば、これも、もちろんポスターもそうなんでしょうけど、うまく清掃事務所というのは毎日区内各所へ行っているんだったら、こういうアピールの仕方、アピールの仕方も考えていくと、要するに清掃車に貼るなりなんなりするとかができるのであれば、こういうときも、要するにホームページに載っけましたとか、こういうポスターやなんかもうまくやって啓発していくということをやっていただくと、もっと有効的にこの事業に対する理解も深まると思うんです。その辺はどうですか。

○千賀千代田清掃事務所長 小林委員から以前よりご指摘を頂いております清掃車へのラ

ッピング等々、そういったところの活用というところは多分にあるかというところでございます。ぜひそういったものをちょっと少し検討して、日々の清掃車にもそういった展開、アピールができるように考えてまいりたいと思います。

○小林委員 食品ロス自体はこれからずっと永遠の課題なんで、これはやっぱり取り組んでいかざるを得ないですね。こういう登録制度ができて、より現実的に食品ロスを進めていかなくちゃいけないというのは、自治体としても喫緊の課題なんで、やっぱり続けてほしいけど、何をやるんでも、役所がやる場合に、アピールが下手なんです。だからそのアピールをどうするかと。いいことをやって、やってほしいんですよ、皆さんに。そういう、要するにましてや一般区民の方も、要するに在勤者の方も、全ての方にやってほしいもののアピールというのは、分かりやすく、もう積極的にやっていただきたいと思うんで、検討して、清掃車でも何でもいいんです。できるだけ多くの方が見れるようなところに。部長がいるから、僕、前から言っているんですけど、工事現場に絵を貼ってもらったりしているんですね、地域の絵を貼ってもらったりする。そういう要するに現場の壁なんていうのは白い壁である必要がないんで、そういうアピールも併せてこういうのを、これだけじゃないんですけど、これもそうなんですけども、そうやってうまくアピールすることによって、その事業者もやる気が出てきたり個人への啓発になったりするんで、その辺も併せて検討いただけないでしょうかね。

○千賀千代田清掃事務所長 そういった、先ほどの清掃車のみならず、いろいろな開発事業等々の周知、地域への地域貢献的なところでも、ご協力はいただけるか。これは部内各担当課を通してでも、ちょっと検討を図ってまいりたいと思います。

あと、そういった事業者さんの、そこに入られる飲食店さんなんかは、多分にそういったことにご協力的かなと思いますので、そういったところも踏まえて今後の連携というものをしっかり考えていきたいと思います。

○桜井委員長 はい。よろしいですね。

〔「はい」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。それでは、報告事項を終了します。

次に、日程2のその他に入ります。

委員の皆さんから何かございますか。

○岩田委員 あさって二番町のシンポジウムがあるようなんですが、それについて何か報告というか、ないでしょうか。事前申込みということで、何名ぐらい申し込んだのかとか、そういうこととかもお聞きしたいんですが。

○加島まちづくり担当部長 用意はしておりませんが、口頭で答えられるところがございますので、何を質問されたいのか明確に質問していただけるとありがたいんですけど。今の人数は答えられますけれども、それ以外に。何回のやり取りという形でなくて、一遍にご質問いただいたほうがいいと思います。

○岩田委員 じゃあ、全部言ったほうがいいですね。

○桜井委員長 うん。全部言ってください。

○岩田委員 はい。まず、住民が模型を見るだけなのか。住民は意見を言えるのか。そこに日テレさんは来るのか。あと、前回の懸念事項の資料というのはこのときに配られるのか。というのも、あの1回限りで、この懸念事項はもう解決ですねなんて言って、それで

終わりというんじゃ、余計住民の何というんですかね、分断というのが余計に何か解消されないんじゃないかなと思うんですね。あとはそうですね、募集のポスターが、日テレ通りの掲示板の2か所のポスターが剥がれていたというか剥がされていたというか、何でなくなっちゃったのかなというのと、最後は、ファシリテーターって、大学院生とかが来るじゃないですか。ちょっと言い方はきついんですけども、何も知らない大学院生とかがほんと来て、何かしたり顔で、ここはこうですよ、なんて言われても困っちゃうなと思うんですけど、それはどうなんでしょう。

以上です。

○加島まちづくり担当部長　すごくファシリテーターの人に失礼なことを言われていますね。ある地域のところのまちづくりを十分にやられている方で、ああいう話合いの場を重々やられている方なので、そういう言い方はされないほうがいいと思います。

お答えですけれども、ポスターの件は、すみません、ちょっと分からないので、あさってなので、もう募集も締め切っておりますので、なぜそうなったのかというのが分かれば、対応は、対応というか、もう対応できないと思うんですけれども、なぜそうなったのかというのはちょっと聞いてみたいと思います。ただ、ご報告まではちょっとするつもりはございません。

それと、あれですね、模型は見た後に、意見はもちろん、来ていただいた方は何も意見を言えないという場ではございませんので、意見を言っていただけるという形を考えております。

また、懸念事項に関しても、懸念事項というか、前回、2回目、第2回でやったご意見のやつを集約したやつがありますので、それもお出しするつもりです。

参加予定人数は80人を予定しております。

以上です。

○岩田委員　日テレが参加するか。

○加島まちづくり担当部長　あ、そうですね。日テレさんも来る予定になっています。

○桜井委員長　よろしいですか。

○岩田委員　はい。ありがとうございます。

○桜井委員長　はい。ほかにありますか。いいですか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長　はい。

執行機関からありますか。

○吉田地域まちづくり課長　先日、委員の皆様にはポスティングさせていただいたんですけども、神保町地域のまちづくりの関係で、一ツ橋二丁目周辺地区地区計画の変更の考え方に関する説明会というのを2月2日に開催することとなりました。こちら、対象者は同地区計画の範囲内で土地と建物をお持ちの方となっています。

簡単な概要ですけれども、昨年5月から、神保町はまちづくり協議会で、今の個性あるまち並みを持続的に残していくための建物の更新が進むような、ただ、持続的かつ安全なまちにしていこうというためのルール、街並み再生方針というのを今検討しているところです。その街並み再生方針の今の検討している範囲の一部に、既存の一ツ橋二丁目周辺地区という地区計画がかかっておりまして、こちらの地区計画の在り方についても、この、今、

協議会で議論、検討している神保町エリア全体のまちづくりの方向性とか、そういったものに合わせて変更していく必要があるというふうに考えておりまして、その変更の方向性であったりとか、誘導していく用途、そして区域の考え方、そしてまちづくりの今後のスケジュールなどについて、2月2日には説明させていただきます。

その後になりますけれども、その2日の説明会などで頂いたご意見を踏まえて、今年度のうちには、また再度まちづくり協議会を開催して、その場で新しいまちづくりのルールの詳細の案というのをお示しして、またそこで議論を経て、パブリックコメントなどを行った後に、実際にルールとして来年度の上半期ぐらいには策定していく。そういったことを考えています。

次回の協議会が開催された後をめぐり、また委員会でも詳細は報告させていただきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

○桜井委員長 はい。

ほかにありますか。ありませんか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○桜井委員長 はい。お疲れさまでした。それでは、これをもちまして環境まちづくり委員会を閉会します。お疲れさまでした。

午後3時23分閉会